

サトウキビ「はるのおうぎ」の夏、秋植え用に供する種苗の3～4月植えでの増殖率

「はるのおうぎ」採苗ほ，3～4月植付けの二芽苗増殖率は，夏植え栽培用で10～20倍，秋植え栽培用で30～35倍

背景・目的

- ・サトウキビ農家戸数の減少により，作付面積は減少するも，一戸当たりの経営規模は拡大
- ・熊本地域では，早期水稻やサツマイモと作業競合が少ない夏植え栽培，秋植え栽培を推進
- ・夏植え栽培用，秋植え栽培用苗の安定供給とその体制整備が必要

成果の内容

種苗用に3月，4月に植付けると

- ・夏植え（8月植え）栽培用苗の増殖率は，3月は20倍，4月は10倍
- ・秋植え（10月植え）栽培用苗の増殖率は，3月は35倍，4月は30倍
- ・「はるのおうぎ」の苗茎数は，「農林8号」に比べて多く，1本当当たりの節数も多いため，苗の増殖率が高い

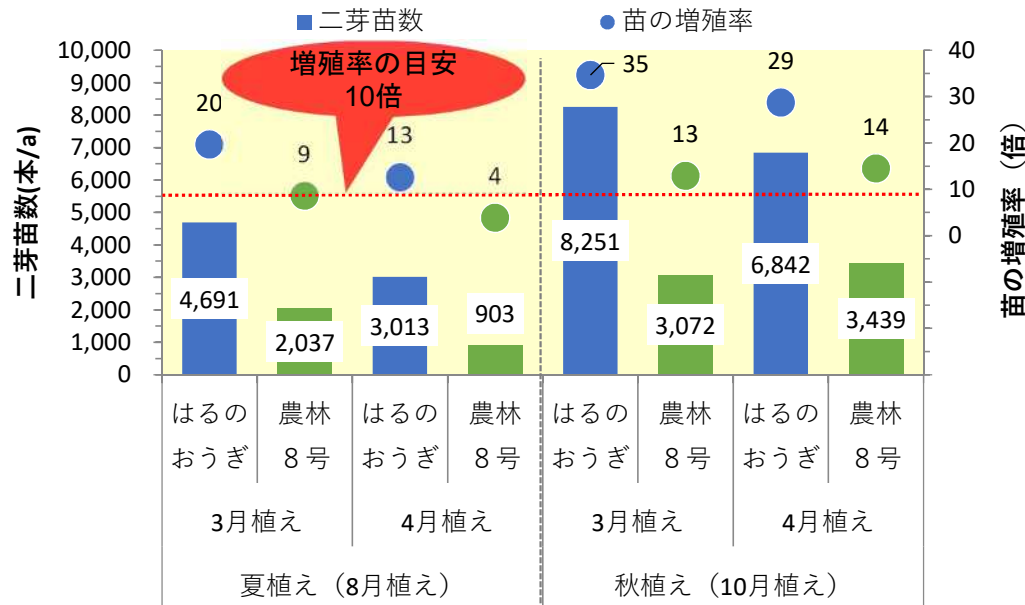


図 採苗ほ1aから得られる二芽苗数及び苗の増殖率

注) 苗の増殖率 = 採苗ほ1aから得られる二芽苗数 ÷ 原料ほ1aに必要な二芽苗数 × 100

期待される効果

○原料用春植え栽培の植付時期に夏植え栽培，秋植え栽培用の苗植付けが可能

- ・前年10～11月植付（栽培基準）だけでなく，当年3～4月の植付でも苗を確保でき，植付け時期が拡大
- ・採苗ほの植付けを，原料用春植え栽培の苗の植付けと同時に行えるため，植付け作業が効率的

○「はるのおうぎ」は，「農林8号」に比べて，採苗ほの面積が1/3～1/2で同等の苗確保が可能

○サトウキビ生産安定

- ・作業競合の少ない夏植え栽培・秋植え栽培の作付面積が増加

○普及対象・範囲

熊本地域無霜地帯のサトウキビ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
熊本支場作物研究室

（民間委託）